

令和7年度「狛江市学習状況調査」の結果及び 「全国学力・学習状況調査」の結果について【中学校】

令和7年9月
狛江市教育委員会教育部指導室

1 狛江市学習状況調査 (NRT)

- (1) 調査実施日 令和7年4月10日(木)
- (2) 調査の目的 ○生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その結果を基に日々の授業改善を行い、生徒の学力向上に資する。
- (3) 調査対象・実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施期間
中学校	第1学年	国語・数学・英語	前学年までに履修した内容 45分間
	第2学年	国語・数学・英語	
	第3学年	国語・数学・英語	

(4) 結果 (第3学年)

ア 国語

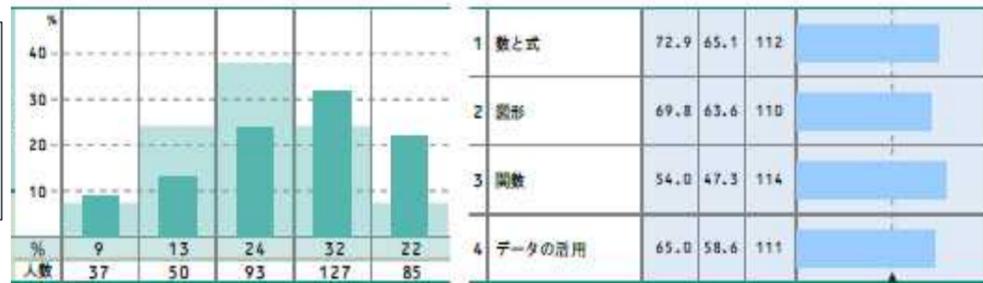
- 実施人数：390名
- 偏差値平均：52.7
- 小問通過率(正答率)
全国平均：58.1%
狛江市平均：63.0%



平均正答率は63.0%であり、全国より高い結果であった。全国平均に届かなかった問題は、話すこと・聞くこと(パネルディスカッションの進め方)と書くこと(文章の批評)である。漢字の書き(引率)と読むこと(物語文における心情の読み取り)では、無答率が30%を超えた。

イ 数学

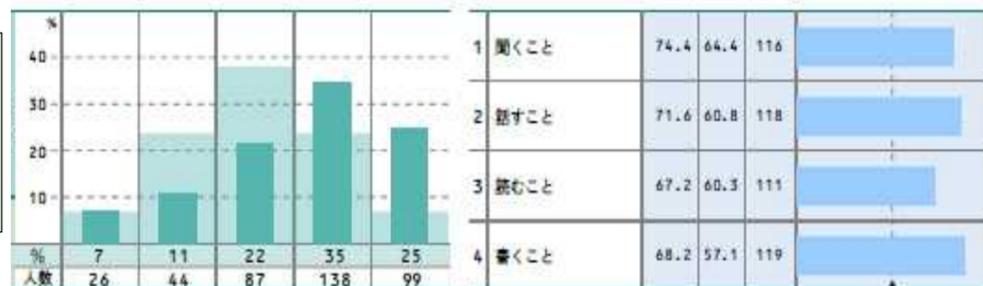
- 実施人数：392名
- 偏差値平均：53.7
- 小問通過率(正答率)
全国平均：58.9%
狛江市平均：65.7%



平均正答率は65.7%であり、全国より高い結果であった。図形(平行線の錯角の説明)、関数(一次関数の傾きの意味・グラフの解釈)は正答率は30%程度と低かった。数と式(連立方程式)、図形(証明・線分の長さ)では無答率が30%を超えた。

ウ 英語

- 実施人数：394名
- 偏差値平均：55.2
- 小問通過率(正答率)
全国平均：61.0%
狛江市平均：70.7%



平均正答率は70.7%であり、全国より高い結果であった。全国平均に届かなかった問題は、話すこと(買い物中の会話)である。また、話すこと(強く発音するべき語)、書くこと(前置詞の適語補充)は正答率が40%未満であった。読むこと(長文読解での指示語の抜き出し)、書くこと(不定詞を用いた英作文)では無答率が15%程度であった。

2 全国学力・学習状況調査

- (1) 調査実施日 令和7年4月17日(木) 冊子を用いた筆記方式(国語・数学)
令和7年4月14日(月)～4月17日(木) MEXCBTを用いたオンライン方式(生徒質問調査・理科)
- (2) 調査の目的 ○生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への学習指導の充実や学習状況等に役立てる。
○取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査対象・実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施期間
中学校	第3学年	国語・数学・理科	前学年までに含まれる指導事項 50分間

(4) 結果

ア 国語 (実施人数：387名)

分類	区分	平均正答率 (%)		全国比 (倍-10)
		狛江市	全国	
知識及び技能	全体	59.0	54.3	108
	(1) 言葉の特徴や使い方	54.8	48.1	114
	思考力、判断力、表現力等	55.4	53.2	104
	A 話すこと・聞くこと	59.3	52.8	112
	B 書くこと	68.4	62.3	110
	C 読むこと			

平均正答率は59.0%であり、全国より高い結果であった。全国平均に届かなかった問題は、話すこと・聞くこと(資料による表現の工夫)である。話すこと・聞くこと(分かりやすく伝える工夫の説明)及び読むこと(文章についての自分の考えとその理由)の記述問題は正答率が25%と低かった。

イ 数学 (実施人数：387名)

分類	区分	平均正答率 (%)		全国比 (倍-10)
		狛江市	全国	
領域	全体	58.0	48.3	120
	A 数と計算	54.7	43.5	126
	B 図形	56.7	46.5	122
	C 関数	56.6	48.2	117
	D データの活用	64.9	63.1	103

平均正答率は58.0%であり、全国より高い結果であった。数と式(倍数の和についての説明)、図形(平行四辺形の証明)、関数(伴って変わる数量の変化)は無答率が20%程度であった。データの活用(相対度数の理解)において、基本的事項にも関わらず、正答率が45.2%と低かった。

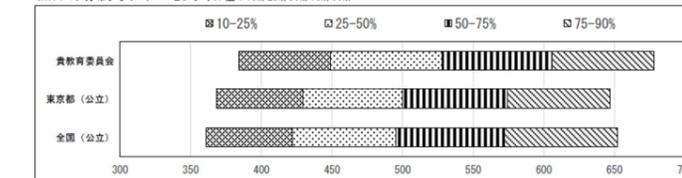
ウ 理科 (実施人数：390名)

平均IRTスコア	
狛江市	533
全国	503

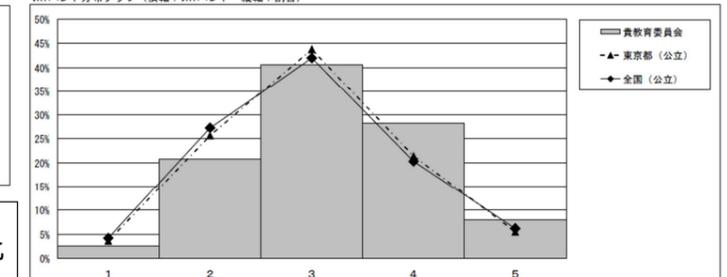
IRT (Item Response Theory: 項目反応理論)

…児童・生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童・生徒の学力によるのか、区別して分析し、児童・生徒の学力スコアを推定する統計理論。
⇒異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できる。

IRTスコア分布グラフ (パーセンタイル値: 10%, 25%, 50%, 75%, 90%)



IRTバンド分布グラフ (横軸: IRTバンド 縦軸: 割合)



全国平均に届かなかった問題は、エネルギー(電気回路の実験)、生命(水中で呼吸する生物、植物の特徴)であった。粒子(水、化学変化)についての記述問題において、無答率が7.7%であった。

3 さらに学力向上に向けて

狛江市学習状況調査(NRT)及び全国学力・学習状況調査において、平均正答率が全国を上回っていることから、狛江市の生徒の学力は一定水準にある。しかし、基礎的・基本的な学力が身に付いていない生徒への個に応じた指導・支援を充実させることや、記述式問題(自身の考えを説明したり、理由を述べたりする問題)に対して生徒が見通しをもって問題に取り組むことができるようにすることに課題があり、方向性として以下の取組を推進することが必要である。

(1) 教師の授業改善

生徒の実態を適切に把握し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる必要がある。一人1台端末で活用した個に応じた学習課題に取り組むことや学習記録からの即時評価等を実施するといった授業改善が求められる。また、様々な学習課題に対峙するため、習得した知識及び技能を活用して思考する場面や生徒同士の学び合いを意図的に設定することが重要である。

(2) 授業改善に向けた指導室の取組

生徒が自らの学習を振り返り、学んだことや疑問点から新たな問いや課題を見だし、自らが課題解決に向けた見通しがもてるようにする。生徒の「深い学び」につながる、協働的な学習の展開等の充実に向けて、授業改善の指導をしていく。